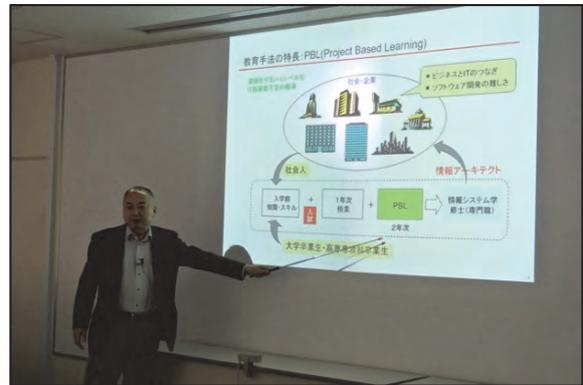


● 会場の模様



2.5.2 講演①早稲田大学

- 講師:大江 建 氏(株式会社総合コンサルティングオアシス 取締役早稲田大学研究推進部 参与)
- タイトル:「超競争社会におけるリーダー育成」のための教育手法の一提案」
- 講演内容:以下、資料抜粋

産業技術大学院大学
「次世代成長産業分野での事業開発/事業改革のための
高度人材養成プログラム」
専門職大学院における高度人材育成のための教育手法に関する
ワークショップ
「超競争社会におけるリーダー育成」
のための教育手法の一提案

2016年1月29日
早稲田大学研究推進部参与
株式会社総合コンサルティングオアシス取締役
大江 建

BORN ASEAN PROJECT の生い立ち

- 2002年の早稲田大学と墨田区の包括提携の機に、大江建の大学院講座「ベンチャー」で墨田区の浜野製作所に対して、成長戦略を策定する「Learning from Helping」方法論を確立した。
- 2004年から経済産業省新規事業課の支援の下にタイ国チェンライ市にあるMae Fah Luang 大学に一村一品運動支援のためにCOBLASプログラム (Consulting Based Learning for ASEAN SMEs) をこの方法論をベースに開発して、ASEAN主要大学に展開した。
- 2006年から2010年の早稲田大学インキュベーションセンターはこの「Learning from Helping」の考えのもとに「Teaching Incubation Center」として、早稲田大学起業家精神のエコシステムの中心の位置付けで運営した。
- このCOBLASプログラムは2012年からハーバード大学ビジネススクールがケースメソッドの代わりに取り入れられているフィールドメソッドも同じようなコンセプトです。

COBLAS 図式

(Consulting Based Learning for ASEAN SMEs)

地元中小企業(ギフト、食材食品、織物、金属工業など)

SME
SMALL & MEDIUM ENTERPRISES

経済統合
EPA&FTA
モノとヒトが自由に動く時代へ

法律・技術コンサルティング
インターンシップ

コンサルティングマーケティング、WEB、新商品、成長戦略の構築

起業家育成講座
COBLASプログラム

MBA

BORN ASEAN PROJECT の三つのWorkshop

1. Strategy Evaluation Workshop
 - インキュベーションセンターのSMEやベンチャーの現在の戦略を分析する
2. Strategy Development Workshop
 - インキュベーションセンターのSMEやベンチャーのASEAN成長戦略の構築プログラム
3. International Business Partnership Workshop
 - SMEやベンチャーのASEAN進出の現地検証プログラム

BORN ASEAN PROJECT Workshops (Class & Field)

Name Workshop	SE Workshop	SD Workshop	IBP Workshop
Participants	Incubation Managers	Incubation Managers SME Top Mg.	Incubation Managers SME Top Mg.
Objectives	To learn basic strategic tools for evaluation	To apply the basic strategic tools to develop strategies for growth	To test the Born ASEAN strategy in the ASEAN country
Basic Strategic Tools	1. PEST Analysis 2. SWOT Analysis 3. Cross SWOT Analysis (to develop growth strategy) 4. Business Model Canvas 5. Attribute analysis		6. Consumption chain 7. Reverse Income Statements 8. BMO 9. List of Assumptions 10. Action Plan

グローバル人材育成

問題発見

ビジネスアイデア 輩出

↓

ビジネスモデルの 策定(日本)

↓

グローバル化の 可能性-ASEANで 可能性現地検証

不確実性に対応できる経営
ビジネスを企画推進できる
グローバル思考
コミュニケーション

2.5.3 講演②産業技術大学院大学

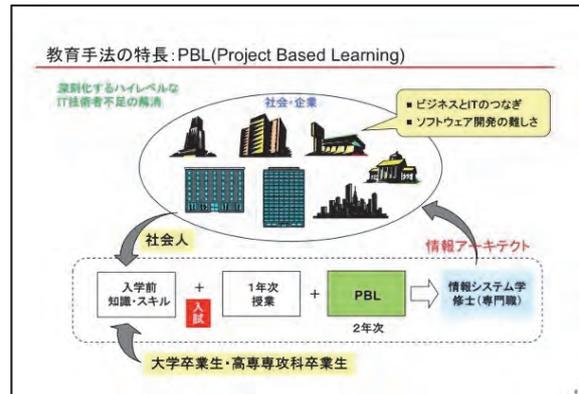
- 講師: 戸沢 義夫 氏(産業技術大学院大学産業技術研究科 情報アーキテクチャ専攻 教授)
- タイトル: 「本学(情報アーキテクチャ専攻)での教育手法が持つ特長」
- 講演内容: 以下、資料抜粋

専門職大学院における高度人材育成のための教育手法に関するワークショップ

本学(情報アーキテクチャ専攻)での教育手法が持つ特長

AiIT 2016年1月29日(金)

産業技術大学院大学
教授
戸沢 義夫



本学のPBLは画期的な試み

- ① 修士論文に替わる修士号を取得するための必須科目である
- ② 2年次のほとんどを費やす
- ③ Competency教育であると明確に位置づけられている
- ④ 教員10名がそれぞれプロジェクトを設定し、教育内容は教員に委ねられる
- ⑤ 大学院レベルの教育が要求される
- ⑥ 社会人中心で、バックグラウンドの違う多彩なメンバーでチームが構成される
- ⑦ Referenceできる事例がほとんどない

2015年度カリキュラム
新しい8科目+事業アーキテクチャに関する従来科目

- (新規: 選修・選択必修科目)
 - 経営戦略特論
 - スタートアップ戦略特論
 - マーケティング特論
 - リーダシップ特別講義
 - ITソリューション特論
 - 事業アーキテクト特論(次世代成長産業)
- (既存: 専門科目群)
 - 情報アーキテクト特論2(事業提案)
 - 情報システム特論2(業務改革)
 - 情報ビジネス特別講義1(法規)
 - 情報ビジネス特別講義2(会計・財務)
 - 情報ビジネス特別講義3(組織)
 - 情報ビジネス特別講義4(事業戦略)
 - IT特論
 - CIO特論
 - プロジェクト管理特別講義
 - プロジェクト管理特論1
 - eビジネス特論
 - サービスサイエンス特論
 - 情報インタフェースデザイン特論
 - 標準化と知的財産
- (既存: 倫理)必修科目群
 - 技術倫理
 - 情報技術者倫理

本学でのケース・メソッドによる教育

- 事業アーキテクチャ研究(2単位, 15コマ)
ケース企業のビジネスを理解する
(ビジネス・モデル, 戦略, 構造, 課題, 成功要因など)
- 事業アーキテクチャ設計(2単位, 15コマ)
ケース企業のビジネスのあるべき姿, 将来像, 戦略を提案する

気づきを得られるようにする工夫

- 3ケース(同じケースを見ても人によってとらえ方が違う)
- 1ケースにつき, 各自8時間の時間外学習
- チームディスカッション(3~4名)で合意を得る(4コマ/ケース)
(ケースごとにチーム編成を変える)
- クラスディスカッション(チーム外からの発想)(1コマ/ケース)

ケース・メソッドとグループウェア

- 事業アーキテクチャ研究(2単位, 15コマ)
情報アーキテクチャ学生9名, 創造技術学生9名, 5チーム
Backlogを使用
Wiki機能が(リモート)チームディスカッションに合う
チーム単位でのアクセス制御ができない
- 事業アーキテクチャ設計(2単位, 15コマ)
情報アーキテクチャ学生3名, 創造技術学生5名, 2チーム
Mantis! courseを使用
チーム単位でのアクセス制御が可能
Wiki機能はないが, 掲示板でチームディスカッションが可能
アンケート機能で, チームメンバー評価・アドバイスが可能
- 個人ごとに掲示板を持たせ
 - 時間外学習の時間・内容を報告
 - 気づきを記録

2.5.4 講演③産業技術大学院大学

- 講師: 越水 重臣 氏 (産業技術大学院大学産業技術研究科 創造技術専攻 教授)
- タイトル: 「創造技術専攻におけるPBL型教育」
- 講演内容: 以下、資料抜粋

専門職大学院における高度人材育成
のための教育手法ワークショップ

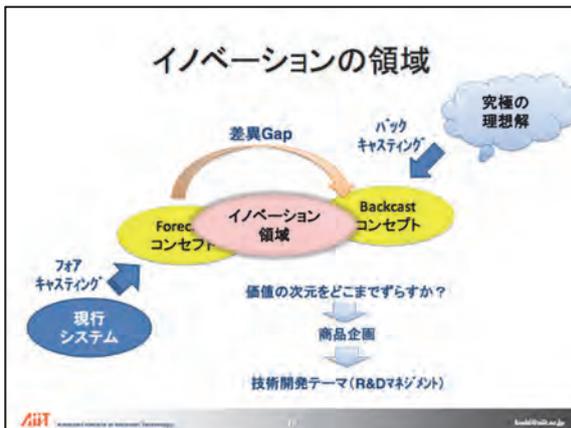
創造技術専攻におけるPBL型教育

公立大学法人 首都大学東京
産業技術大学院大学
越水重臣

2016/1/29



PBL(Project Based Learning)科目
イノベーションデザイン特別演習

ビジネス創造コンテスト 優秀賞受賞
HCD研究発表会 奨励賞受賞

感性選曲
Music selection with your sense

脳波によって音楽体験を創造する製品&サービス



Business Model Canvas
ビジネスモデルキャンバス

KP パートナー 脳波センサーメーカー (Neurosky 社) オーディオメーカー (ソニー) ソフトウェア会社 (リトルソフトウエア社) DEM (当業は自チームで設立) 音楽配信会社	KA 主要活動 プロダクト設計 ソフトウェア設計 サービス設計	VP 価値提案 音楽演奏の新しい手段を提供 記憶化の難しい感性を 顕在化させる仕組み	CR 顧客との関係 ユーザーに合わせて 成長するシステム 音楽の管理や管理にも 楽しさを創造する	CS 顧客セグメント ■初期 情報デジタル機器を 使いこなす音楽ユーザー ■普及期 一般的に音楽を 楽しむユーザー
CS コスト構造 固定費: 人件費、管理費 変動費: 材料費、アウトソーシング費用	RS 収益の流れ 基本収益モデル: プロダクトとアプリケーションのセット販売 (販売初期にはクラウドファンディングを活用) 継続収益モデル: 音楽配信による月額ライセンス料収入			

Koshimizu Project Team



2.5.5 講演④中央大学

- 講師:飯尾 淳 氏(中央大学文学部 社会情報学専攻 教授)
- タイトル:「学習意欲および知識レベルを考慮した教育手法選択の重要性」
- 講演内容:以下、資料抜粋

専門職大学院における高度人材育成のための
教育手法に関するワークショップ

学習意欲および 知識レベルを考慮した 教育手法選択の重要性

中央大学 飯尾 淳

はじめに

- おことわり
 - 私の(教育に関する)バックグラウンド
 - 主に、学部学生を対象としたIT教育を担当
 - 社会人教育に関しては、実施経験はそれほどない
 - OSSを題材に用いたIT技術者育成に関与
 - 大学教育においては、中央大学(本務校)の他、いくつかの地方国公立大学、首都圏私立大学等で教育経験あり
- 本日は話す3つのトピック
 - 反転授業
 - 参加意欲を高める工夫
 - 前提知識の見極めとレベルに合わせた教育

2015年1月29日 Copyright © Jun Iio 2

社会人教育と反転授業

- (一般に)社会人学生のモチベーションは高い
 - 学費を自分で払っている
 - 学位取得・技術の習得・キャリアアップなど具体的な目標を持っている
 - 時間が貴重であることを知っている
- 反転授業は社会人教育でこそ有効...ではなかるか?
 - 基礎的な知識・スキル習得は独学でも可能
 - 不明点・議論の論点等を抱えて講義に参加
 - 社会人相手の講義では活発な議論があると聞く
 - ⇒ 理想的な「反転授業」の応用例になるのでは?

2015年1月29日 Copyright © Jun Iio 6

学習意欲を高めさせるには

- 「反転授業が成立しないまでも、少しでも対話的な講義に持っていけないか」という願い...



- リアクションペーパーの活用
 - 受講票のコメント部分を学生との対話に活用
 - 現代学生気質
 - 講義中の質問は苦手
 - それでも彼らは主張する

2015年1月29日 Copyright © Jun Iio 8

高度人材育成のための教育でも

- ITを例に説明したが、それ以外の分野でも...たとえば
- AIIT情報アーキテクチャ専攻を想定する
 - ITのスキルや知識のレベルは高い(かもしれない)
 - それ以外の「普通なら知っているはず」という知識に欠けていることは?
 - そのような部分でのフォローと工夫が必要では

2015年1月29日 Copyright © Jun Iio 20

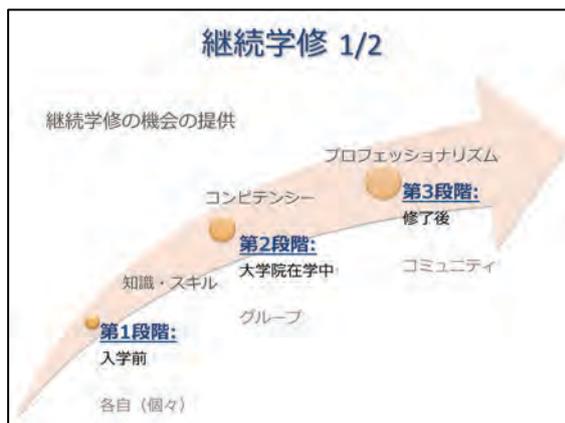
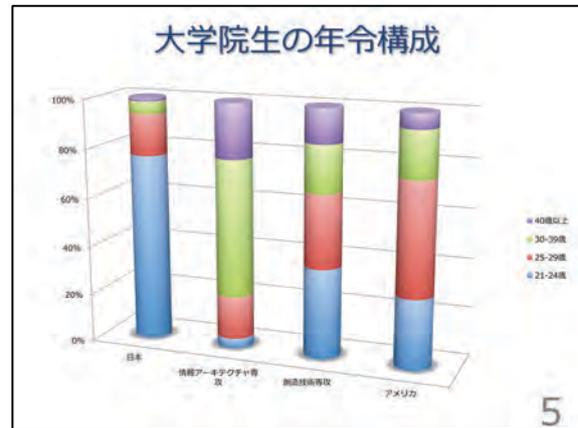
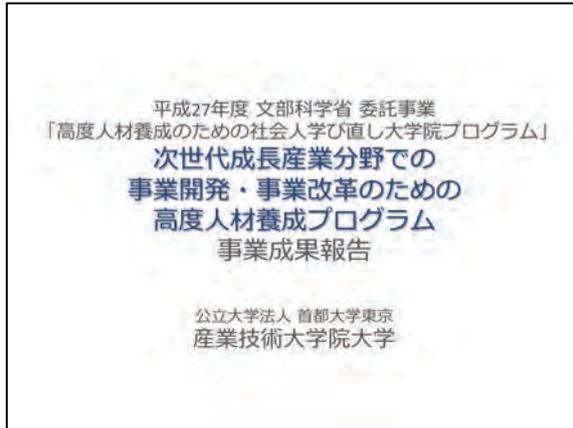
まとめ

- 反転授業
 - 専門職大学院における高度人材育成には反転授業の効果が見込めるのではないか
- 学習意欲の鼓舞
 - 学習意欲を高めさせるためにリアクションペーパーを活用しようとしたが、ITで手を抜くと効果がなくなってしまった
- レベルに合わせた工夫
 - 低いレベルから高度なレベルまで、適切な教育手段を選択する必要があるが、見極めは意外と難しい

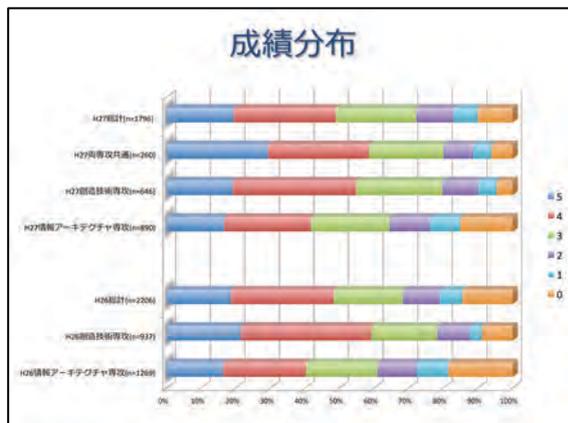
2015年1月29日 Copyright © Jun Iio 21

2.5.6 当事業成果報告 産業技術大学院大学

- 発表者: 小山 裕司 氏 (産業技術大学院大学 附属図書館長 情報アーキテクチャ専攻 教授)
- 発表内容: 以下、資料抜粋



- ### 試行運用: コース希望者
- 「事業アーキテクト」コース ガイダンス (4/11 18:30)
 - ガイダンス 参加者37名、懇親会 参加者 27名
 - 希望・興味あり 35名 (情報20名、創造15名)
 - 第2学期修了時点 (3科目終了、残り5科目)
 - 9月アンケート (第3学期の履修登録で、残り2科目未満の学生対象)
情報 希望 8名 (未定・未回答 4名)
創造 希望 3名 (未定・未回答 9名)
 - 懇親会 (10/10) 参加者 19名
 - 第3学期終了時点 (5科目終了、残り2科目)
 - 12月アンケート
情報 希望9名 (未定・未回答 3名)
創造 希望5名 (未定・未回答 5名)
 - PBLガイダンス (情報 1/9、創造 1/16)



- ### H28年度 活動・成果の計画
- 事業アーキテクト養成のための基盤の構築の継続
 - 教育プログラムの試行運用「事業アーキテクト」コース 約20名
 - 1年次 (講義演習型科目・事例研究型科目) 約10名
重要科目 (事例研究型の2科目) の複数回開講
新設科目 1科目
 - 2年次 (PBL型科目) 約10名 (両専攻 8 PBL)
 - 教育プログラムの開発
 - 教員研修 (事例研究及びPBL)
 - 教材の実証実験、PBLキャンプ
 - 社会人学び直し機運醸成
 - 一般対象 起業塾 4回程度、Web記事
 - 運営・普及・評価
 - 社会人学び直し推進委員会 3回、プログラム開発委員会 3回、カンファレンス 1回、外部評価委員会 1回事業成果報告書、事業Webサイト